

一期一会

自律 目標に向かって自分自身を律する
感謝 思いやりや感謝の気持ちをもつ
貢献 将来社会に貢献する態度を養う

2021.5.7 第5号



新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年から室内で過ごすことが多くなりました。そこで問題になってくるのが過ごし方です。心配される事例をみてみますと、ネットゲームにはまり夜中遅くまでゲームをしている状況や他校とのトラブルもあるようです。前任校では、朝方2時～3時ぐらいまでオンラインゲームやラインでやりとりをして、不規則な生活になっている生徒がいました。スマホやネットに触れる機会も増えていきますので、ご家庭でも話題にいただきまして使用の際のルール確認をお願いします。

知っておきたい子どものネット世界

「頑張れば結果出る」課金のためバイトしゲームにのめり込む

兵庫県立大学准教授 竹内 和雄

先日、近畿地方の高校生男子3人と話しました。3人ともバトルロイヤル系ゲームに夢中です。

竹内 ゲームは毎晩してるの？

E男 みんな忙しくて、だいたい午後10時ごろから一緒にプレーしてる

D男 バイトの関係で、曜日によって違う

竹内 バイト、大変だね

F男 週3日くらいで入ってる

D男 俺も週3日だけど、土日は頑張るから5万くらいになる

竹内 そんなに稼いで、どうするの？

D男 ほぼ全額ゲームに課金

F男 俺も

竹内 親は何も言わないの？

E男 自分で稼いだお金だし、好きにしろって

竹内 もったいなくないの？

D男 ゲームのためにバイトしてるから、当然

E男 ゲームはつぎ込んだだけ結果が出るから、やりがいがある

F男 俺ら、勉強もあかんし、部活もやってないし、ゲームしかない

D男 一緒にするなよ(笑)

E男 D男、例のゲームで全国27位だろ、課金の成果じゃん

D男 まあな。ネットでゲームの実況をすると、日本中から見に来る

E男 ゲームで知り合った人が集まる時も全国から会いに来るもんな

D男 まあな



ゲームのためにアルバイト。私はどうも納得がいきません。詳しく聞くと、「ゲームのランキングが上がる、『自分自身の価値』が上がる」と言います。そういえばゲームにのめり込む子の多くが、日常生活に誇ることがない場合が多いようです。

テストの点数が高いとか、部活で活躍しているとか、そういう子はゲームなどをしても、そこまでのめり込みません。彼らの承認欲求が既に満たされているのかもしれない。

ゲームにのめり込む子は、課金し、ランキング上位者になることでしか、自分の価値を確かめられないのかもしれない。そう考えると急に彼らがかわいそうに見えてきました。

「ゲームはお金をつぎ込んだだけ結果が出る」というE男の言葉が印象的です。逆に言うと、彼らにとって勉強も部活も、もっと言えば人間関係も、「いくら頑張っても結果が出ないもの」なのかもしれません・・・。だからゲームにのめり込むのだとしたら、子どもを受け入れていくという点で、現実社会はゲームに負けているのかもしれない。私たち教育関係者に突き付けられている、大きな課題と受け止めるべきでしょう。

【宮崎日日新聞の記事より】

コロナ休校長引く子どもたち



新型コロナウイルスの感染拡大で休校が長期化し、自宅で過ごす子どものインターネットやゲーム依存が懸念されている。休校期間中にネット動画視聴やゲームに費やす時間が増えたとの調査結果も。依存症の専門家は、生活リズムを崩す危険性に言及し「保護者は時間の管理を」と呼び掛けている。

ネット、ゲーム依存注意

「保護者は時間管理を」

子どものネット・ゲーム依存を予防するポイント

- ネット動画の視聴時間、ゲームのプレイ時間を決める
- 徹夜などで生活リズムを乱さない
- 休校期間中にやるべきことをつくる

※ 専門家の取材に基づく

自宅でゲームをする中学生（本文とは関係ありません）

アンケートアプリ開発などを手掛けるテストティ（東京都中央区）が3月27日～4月6日、中学生から大学生までの8464人に「利用や視聴が増えた媒体」を尋ねた結果、高校生の71%、中学生の72%が「スマートフォン」と答えた。そのうち利用が増えたサービスを見ると、8割以上が動画投稿サイト「ユーチューブ」で、ゲームアプリとの回答も4～5割いた。「自宅内で増えた行動」としてゲーム（スマホ以外）を挙げた中学生は43%、高校生33%だった。依存症の相談などに応じる任意団体エンジェルズアイズ（東京）の遠藤美季代表は「部活動や受験に目標を持っていない子どもがゲームなどにはまりやすい。あらゆる活動が制限されている今回の休校では目標を見失い、ネットやゲームに没頭する子どもが増えるので」と懸念する。

感染拡大後に「ネット動画の視聴がやめられない」という相談も寄せられているが、両親が在宅勤務になったことで、子どものゲーム時間を管理できるように好転したケースもあったという。遠藤さんは「ネットやゲームは子どもたちの重要なコミュニケーション手段となりつつある。それだけに管理する保護者の役割が重要だ」と訴える。遠藤さんら専門家は、子どものネット・ゲーム依存を予防するポイントとして①ネット動画の視聴時間を決める②徹夜などで生活リズムを乱さない③休校期間中にやるべきことをつくる」を挙げる。

依存症の専門治療を行う国立病院機構久里浜医療センター（神奈川県横須賀市）の樋口進院長は、現在の外来患者に目立った変化は表れていないとしつつ「生活リズムが狂い、学校再開時などに通常の生活に戻れない子どもが増える可能性がある」と指摘した。